

丹沢山地におけるササ 3 種の 2013 年の開花記録

永田幸志*・田村 淳**

Flowering records of three bamboo species in the Tanzawa Mountains in (the year) 2013

I はじめに

丹沢山地では 24 のタケ科植物（以下、タケ・ササ類）が確認されている（勝山ら, 2007）。タケ・ササ類は、数十年～百数十年に一度の周期で開花し、また、多個体が同調して一斉開花枯死することが知られている（蒔田ら, 2010）。丹沢山地のシイ・カシ帯からブナ帯に生育する主なタケ・ササ類は 3 種あり、アズマネザサ (*Pleiblastus chino* (Franch. & Sav.) Makino var. *chino*)、スズタケ (*Sasamorpha borealis* (Hack.) Nakai var. *borealis*) とミヤマクマザサ (*Sasa hayatae* Makino) である（勝山ら, 2007）。本報告は、2013 年に丹沢山地各地でスズタケの一斉開花が確認されたことから、広く情報収集しタケ・ササ類の開花情報として記録したものである。

II 材料と方法

開花情報を収集した種は、上記 3 種とした。開花情報を広く収集するために、次の県内各機関の職員に図 1 の資料を配布して開花情報（種名、確認日時、確認場所、開花の規模）の提供を依頼した。対象とした機関は、神奈川県自然環境保全センター、神奈川県自然公園指導員連絡会、神奈川県各地域県政総合センターの森林管理部署、神奈川県立ビジターセンター、林野庁関東森林管理局東京神奈川森林管理署である。

III 結果および考察

調査期間中に提供された開花情報はスズタケ 42 件、ミヤマクマザサ 5 件であった。アズマネザサの開花情報は得られなかった。開花の確認された場所を図 2 に示した。いずれの情報も、開花の確認されたおおまかな範囲または開花の確認された歩行ルートが情報提供されたため、図示した線上で部分的にササの開花が確認されたという状況である。

図 2 から、主稜線部を中心に丹沢山地の各地でスズタケが開花し、丹沢山周辺、菰釣山周辺、大山周辺では、ミヤマクマザサが開花したことがわかる。

丹沢山地では、ニホンジカ (*Cervus nippon*) による過度の採食圧により、スズタケの退行等の林床植生の劣化が指摘されている（村上ら, 2007）。開花が確認された場所では、来年以降ササが枯死すると考えられるため、ニホンジカによる林床植生への影響の把握にあたっては、開花による枯死の状況も考慮する必要があると考える。

IV 謝辞

本報告にあたっては、丹沢山地で活動されている多数の機関・多数の方に情報提供をいただいた。ここに記して感謝の意を表する。

* 神奈川県自然環境保全センター研究企画部自然再生企画課（〒 243-0121 厚木市七沢 657）

** 神奈川県自然環境保全センター研究企画部研究連携課（〒 243-0121 厚木市七沢 657）

V 引用文献

村上雄秀・鈴木伸一・林寿則・矢ヶ崎朋寿(2007) 丹沢大山の植生—シカ影響下の植物群落— 17-87. 丹沢大山総合調査学術報告書. 丹沢大山総合調査団編, 794pp, (財) 平岡環境科学研究所, 相模原

勝山輝男・田村淳・田中徳久(2007) 維管束植物. 1-44. 丹沢大山総合調査学術報告書 丹沢大山動植物目録. 丹沢大山総合調査団編, 472pp, (財) 平岡環境科学研究所, 相模原.

蒔田明史・鈴木準一郎・陶山佳久(2010) Bamboo—その不思議な生活史. 日本生態学会誌 60: 45-50.

丹沢山地におけるササ開花に関する情報提供票

※以下の内容が記載されていれば、どのような形での情報提供でも結構です。

情報提供者(所属・氏名)	
開花確認年月日	
開花しているササの種類 (○で囲んでください)	・スズタケ ・ミヤマクマザサ ・アズマネザサ ・その他(名称) ・不明
場所 ※地図を添付してください。	
開花の規模 ※10m×10m、登山道沿い1km等、○○山～○○峠まで等。範囲が不明な場合は、小面積、○○山周辺 等でも結構です。	

図1 ササ開花に関する情報提供票

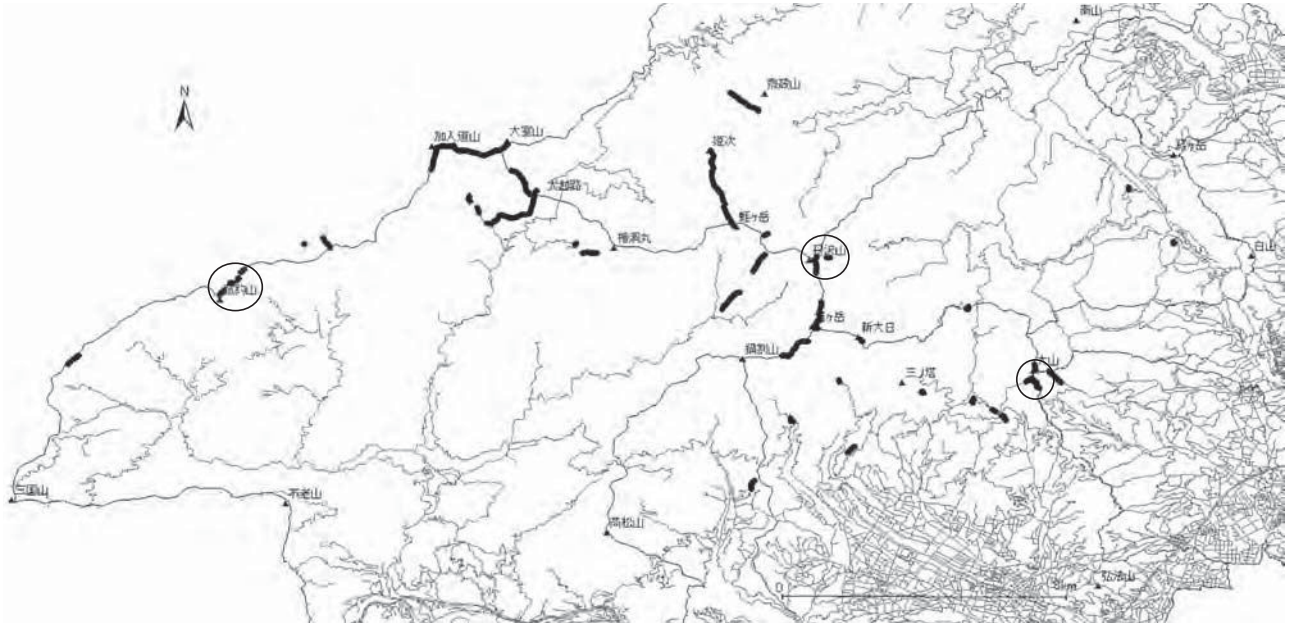


図 2 2013 年にササ類の開花が確認された場所

* 1 太線上で部分的に開花が確認された。

* 2 ミヤマクマザサの開花は菰釣山、丹沢山、大山周辺の一部（丸で囲んだ中の一部地域）でのみ確認された。